

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中

報告日 2020年12月21日

派遣決定番号

## 地域情報化アドバイザー制度活用報告書(1日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	大阪府	代表者名	吉村 洋文
担当者部署	スマートシティ戦略部	連絡先電話番号	06-6944-9105
担当者役職	主査	担当者氏名	川満 将吾
住所	540-8570 大阪府大阪市中央区大手前2丁目		

#### 1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	三木 浩平
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	情報システムの標準化を中心に講演して頂き、国の最新の動向などを府内市町村にとって、非常に参考になるものでした。また、講演終了後のアンケートにおいても、「大変参考になった」もしくは「参考になった」との意見が9割以上との結果であり、大変有意義な講演でした。
アドバイザーへの要望事項	今後も情報システム標準化について、大阪府・府内市町村に対してアドバイスを頂ければと思います。

### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2020年12月18日	13時30分	15時45分		135
	派遣形態	講演(オンライン)			

### 4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	府内市町村の職員	107人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	総務省において、平成30年度に世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画が改定され、2023年度までに自治体クラウド導入団体を全国で1,100団体とする目標が掲げられており、標準化に関する検討会が立ち上がる等、様々な議論がなされている。各自治体はこれらの動向を適切に把握した上で、自治体クラウドなどの事業に取り組まなければならない。	
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	2025年度末までに、府内43市町村が標準仕様に準拠したシステムに円滑に移行することを目指す。	
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	大阪府が主催する「自治体クラウド検討会」において講演して頂いた。講演では、情報システムの標準化を中心に、情報セキュリティやマイナンバーなどの国の最新の動きを説明して頂いた。	
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	情報システムの標準化に関する国の動きを把握することで、市町村における標準化への対応の参考となった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	<input checked="" type="radio"/> その他
	市町村職員の知識が向上することで、今後の情報システムの標準化への対応の参考となった。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください)	特になし	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 講演終了後のアンケート結果は以下のとおり。WEB会議システムのアンケート機能を活用したため、WEB会議へのアクセス単位でアンケートに回答する方法を採用した。 「大変参考になった」11 「参考になった」34 「あまり参考にならなかった」3	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	<input checked="" type="radio"/> ③現段階では課題・問題が残っているため未定
事業の最終的な目指す姿		

## 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

The screenshot displays a Zoom meeting interface. On the left, a PowerPoint slide titled "2025年へ向けたTo Be像" (Vision for 2025) is shown. The slide content includes:

- Header:** 2025年へ向けたTo Be像
- Left Column (Vertical Text):** 戸、住、児、介、生活、地
- Central Text:** 業務共通化、データ移行の進捗に応じて段階的に共同システムへと移行
- Right Column (Buttons/Services):** 戸籍, 住基, 児童, 介護, 生活保護, 地方税, 番号管理, 在外邦人, 公金口座, JPKI, 公共サービスメニュー, 通知, 認証認可, 符号変換, API Hub, 年金, ハローワーク, 国税, 共通BCP, ハローワーク, 共通SaaS, 国税
- Bottom Text:** 大規模な制度改革、標準仕様の改訂、リプレース等の度にモジュール単位での段階的な更改が可能な疎結合の構造に
- Footer:** 公共VPC / SDN / IdP / SOC (使途毎に論理分離, 東西AP設置)

On the right side of the Zoom window, a chat window is open for the meeting titled "発言中: Kohei Miki内閣官房". The chat history shows:

- 市民局 覚前氏電話対応中とのことでしたので、後ほど、戻ってきたらチャットするように連絡しました。
- 大阪市 市民局 覚前から(プライベート): 午後 1:17 大阪市 市民局 聞こえております。
- 摂津市 情報政策課 森本から(プライベート): 午後 1:22 摂津市です。会議室移動しました。音声聞こえております。
- 松原市 から全員へ: 午後 1:23 聞こえております

At the bottom of the Zoom window, there are controls for Mute, Video Start, Share, Record, and a list of participants (65) including "Kohei Miki内閣官房".